

To the Next Stage

# 進路通信 道標 3月号 第5号

神戸野田高等学校 進路指導部

## 一年を振り返って 自分は成長しただろうか

校舎の懸垂幕に、本校生・本校卒業生の活躍が紹介されています。これは、昨年度のこの時期に掲げられていたものです。1年生は、この時期中学を卒業し、神戸野田高校への入学が決まった時期、2年生は、卒業生の坂本選手が北京オリンピックで銅メダルを獲得し学校中が湧き上がり、進級への意気込みを持っている時期であったと思います。この一年間様々なことがあったと思いますが、ようやくコロナ禍も落ちつき、マスク着用ルールなどを含め新たな展開が次年度から始まります。自分の進路実現に向けて、卒業した先輩に習い、また、社会の様々な先人の生き方に学び、日々努力を続けて欲しいと思います。

そのために、皆さんの現在の進路意識や進路実現に向けての取り組み状況を2月に集計した進路希望調査結果をもとにお話します。



## 2月集計 1・2年生進路希望調査結果について その1 進路希望状況

①志望進路先の状況 ( )は割合 生徒数 2年生 311名 1年生 356名

志望先	2年生【2月集計】	2年生【1年の6月】	1年生【2月集計】	1年生【6月集計】
国公立大学	31 (10%)	75 (23%)	48 (14%)	86 (24%)
私立大学	193 (62%)	141 (43%)	200 (56%)	146 (41%)
短期大学	5 (2%)	11 (3%)	13 (4%)	18 (5%)
専門学校	51 (16%)	64 (20%)	54 (15%)	71 (20%)
就職	8 (3%)	16 (5%)	13 (4%)	17 (5%)

「学力が向上すれば、進路の選択肢が増える」といいますが、進路選択の上で学力はかなりのウェイトを占めます。学力を向上させて、自分が望む進路にチャレンジすることが重要です。

また、神戸野田高校の卒業生の大学進学者は増加傾向、専門学校進学者や企業等就職者は減少傾向にあります。令和3年度の大学等進学者は251名、専門学校79名、就職19名でした。令和2年度(263名、93名、29名)、令和元年度(231名、69名、36名)、平成30年度(211名、85名、29名)でした。

近年少子化や高学歴化の影響もあって、文科省「学校基本調査」によると全国の大学進学率と専門学校進学率の差が広がっています。令和3年度の大学進学率52.8%に対し専門学校進学率は17.3%で35.5%の差、15年前の平成18年度は42.0%と18.4%で23.6%の差でした。かなり大学進学率が伸びています。

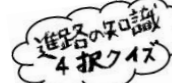
専門学校進学率が伸びない理由の1つが、就職率の低下です。令和3年度の大学の就職率は74.1%に対し専門学校は76.1%と若干上回っていますが、15年前は大学63.7%に対し専門学校79.7%と圧倒的に専門学校が上回っていました。専門的技術を身に付け就職に強いのが専門学校でしたが、資格取得等実務を重視する大学が増え、専門的技術を身に付けた大学卒が専門学校卒の職に就く状況も見られます。大学や専門学校を選択する際は、各校のアドミッションポリシー、就職状況、スタッフ等の定着状況などについて、複数の学校の情報を比較し、「未来の自分」を想像し、慎重に考えて欲しいと思います。

### ②志望分野の状況(大学・短大希望者で多い志望分野)

2年生 社会科学 46名(20%)、人文科学 36名(16%)、情報 21名(9%)、教育 19名(8%)、看護 18名(8%)、心理 14名(6%)、芸術 14名(6%)、医療技術 12名(5%)、栄養 9名(4%)、総合・学際系 8名(4%)

1年生 社会科学 48名(18%)、教育 37名(14%)、人文科学 31名(12%)、芸術 26名(10%)、心理 19名(7%)、看護 19名(7%)、情報 18名(7%)、理学 13名(5%)、総合・学際系 13名(5%)、栄養 9名(3%)

全国的な傾向では、情報や看護への進学希望が増加しており、また心理学部を新設する大学も相当数見られます。神戸野田高校の希望動向も同様です。希望者が増加する分野の入試は難化しています。



大学の目的は ( ) である。 ①専門分野を中心とした学術研究 ②実務的な知識や技能の習得 ③専門職に必要な知識や技術の習得と研究 ④専門職で即戦力となる知識や技術の習得 ☆正解は『令和4年度進路の手引き』p.22 参照。

裏面へ

## 2月集計 1・2年生進路希望調査結果について その2 進路意識など

①「保護者との進路相談の状況」と「社会との関わり意識」について ( )は前回6月

保護者との進路相談	2年生	1年生	新聞やニュースを見ている	2年生	1年生
・よく話をする	22 (12)%	13 (10)%	・常に見ている	11 %	7 %
・時々話をする	51 (49)%	56 (48)%	・時々見ている	51 %	60 %
・あまり話さない	16 (32)%	23 (36)%	・授業で指示があれば見る	31 %	28 %
・まったく話さない	4 (3)%	3 (6)%	・無回答など	7 %	6 %

### ・「保護者との進路相談の状況」について

前回6月の調査より、1・2年生ともに「よく話をする」「時々話をする」が上昇しています。進路選択の時期が近づくにつれて、保護者との相談機会も増えると思います。保護者とよく話をして決めていくとともに、学費などの相談もしっかりと行ってください。3年生の後半、ほぼ進路が内定してから、経済的な理由などで方向が急が変わってしまうことも時々起こっています。問題を先延ばしするのではなく、奨学金制度など、様々な方法を早くから考えて、対策を行っていきましょう。担任の先生とも相談していきましょう。

### ・「教養や知識を深めるため、新聞やニュースを見ているかどうか」について

就職試験では、昔から社会の動きについての一般常識が出題され、面接でも社会との関わりが質問されます。大学入試では、定員割合が上昇している総合型選抜(旧AO)の小論文や面接において、ベースに教養が備わっていないと自己表現できない場合が多く見られます。また、大学入学共通テストでは、一般常識や時事問題、データの読み取りなど、教養が備わっていることを前提に、各教科の専門的な力と関連させ、多くの情報を読み解いたり、知識を応用したりする力が求められています。積極的に新聞やニュースを活用しましょう。

### ②進路希望と関連する情報のオープンキャンパス、インターネット、「進路の手引き」等からの入手状況

- ・オープンキャンパス・説明会への参加状況 (2年生) 複数回ある(25%)、1回ある(17%)、ない(50%)
- ・自分の進路希望と関連する情報の「進路の手引き」や本・インターネット等からの入手状況 (1年生) 常に新しい情報を入手(4%)、ときどき入手(50%)、進路希望調査時のみ(25%)、なし(16%)

総合型選抜などでは、志望動機が重視され、その際、「本学で何を具体的に学びたいか」を聞かれます。オープンキャンパスで模擬授業を受けるなど、大学教官の得意分野を具体的に語れると評価が高くなります。

→漠然とした志望動機ではなく、具体的に大学等で何を学び将来はどうしたいかが問われる

→目標とする職業やそれを通しての生きがいなど、将来目標を明確化するために関連事項を調べ、良い点、悪い点を分析する。そして、説得力のある志望動機や大学等での学びの意欲を示すことができるかが可否を左右している

→総合型選抜に限らず、進路実現のため、**主体的な進路情報の収集と進路目標の明確化が重要です** 裏面 合格体験記参照

## \*進路実現に向けての重点目標 新学年に向けて\*

- 新3年 : 自己の学力などの状況を分析し、進路実現に向けて具体的な目標を立てる  
先輩の受験体験記を読んだり、進路情報を収集したりし、具体的に行動を始める
- 新2年 : 1年間の学習を振り返り、学習習慣が身についているか確認する  
自ら高い意識を持って学習課題に取り組み、着実に学習を積み重ねていく

## 進路に関する取り組み(新年度当初)

進路指導部より

### ◆新3年生

- 4月11日(火) 実力診断テスト、進研模試(1日目、2日目は4月15日)
- 5月6日(土) 進路ガイダンス(大学・専門学校等)
- 6月上・中旬 大学入学共通テスト模試、実力診断テスト、進路希望調査
- 7月中旬 指定校推薦オリエンテーション

### ◆新2年生

- 4月11日(火) スタディーサポートテスト 4月21日(金) 進路関係学年行事
- 6月中旬 進路希望調査 6月17日(土) 進路ガイダンス

2023（令和5）年3月20日（月）

### 【合格体験記①】 立命館大学 経営学部 合格（総合型選抜） 令和4年度 特進・GEコース卒

私が第1志望を立命館大学国際経営学科に決めた理由は、しっかりとした理由ではなく、自分の感覚で1番ピンと来たからでした。そこから総合型選抜を受けるとなると、志望理由書やキャリアビジョンを書かなければいけないので、自分の中のその感覚を言語化しなければいけませんでした。それが少し難しかったけれど、色々な先生に何度も添削してもらって過程で自分の目標や夢が明確になり、最終的に自分が納得できる内容を提出できました。2次試験は英語面接もあり、練習では、上手く出来ない自分自身に腹が立つことも多かったけれど、諦めずに先生にできるだけ多く練習していただいた結果、自信が付き、合格することができました。

合格できた今、私が大切だと思うことは、日頃から小さい目標を立ててそれに向かって努力を続けることです。私は高校1年生の時は明確な将来の夢がありませんでした。その時将来のためにできることを考え、思い付いたのが定期テストの勉強です。毎回良い成績を取ろうと思うとプレッシャーやストレスで辛い時もありました。今思い返せば、そのおかげで精神的に成長できたと思っています。また、英検にも何度も挑戦してきました。準1級の取得は難しく諦めそうになりましたが、自分の頑張り次第で成長できることを感じさせられました。私の受けた国際経営学科の総合型選抜は英検準1級が絶対条件だったので、その時に頑張って合格できて良かったと心から思っています。努力を長期間続けることは辛いと思いますが、絶対に少しずつ成長しているので、頑張ってください。

### 【合格体験記②】 京都産業大学 外国語学部 合格（一般選抜） 令和4年度 特進・7ト・バンコース卒

私の受験経験から大切だと思うことを2つ書きたいと思います。

1つ目は、自分が行きたい大学は、最後まで諦めずに挑戦し続けることです。自分が京都産業大学を目指すようになったきっかけは、高2の時に参加したオープンキャンパスでした。その時に、この大学のことをいろいろと知ることができ、魅力を感じたからです。高3になってからは、来る受験に向けて今までで一番勉強しました。学校の対策ゼミなどにも参加しました。そして、公募制推薦入試や一般入試の前期日程を受験しました。しかし、いずれも合格することができませんでした。この時は落ち込みましたが、すぐに気持ちを切り換えて中期日程を受験し、合格することができました。とても嬉しかったです。たとえ前期がダメでも、中期・後期があるので最後まで諦めないことが大切だと思います。

2つ目は、受験に対して後ろ向きにならないことです。自分の場合は中期で合格したので、友達がどんどん進路が決まってく中、自分だけまだ決まっていけないという状態でした。その時は複雑な気持ちで後ろ向きになりかけたことが、それに打ち勝ち、前を向いて頑張れたので明るい結果を得ることが出来たのではないかなと思いました。

### トピックス 車いすテニス 国枝さん国民栄誉賞受賞へ（朝日新聞記事 2023. 3. 4）

国枝慎吾さん(39)は、「東京パラリンピックで日本選手団の主将を務め、1セットも失わない強さで金メダルに輝いた。…引退後の生き方にどんな青写真を描いているのか。先日、引退したばかりで気が早いのを承知で尋ねた。『テニス人生で、試合中の1球1球はもちろん、プロ宣言、手術など節目で決断を続けてきました。それぞれで実行に移した行動力は成功体験として残っている。それはこれからの人生にも生きると思います』」と記事にあります。成功の裏には数々の失敗からの学びがあり、失敗を恐れずに前を向いてチャレンジし続けた成功体験には、大変説得力があり、勇気を与えられます。また、「AERA」2023. 3.6の記事には、2006 年秋、「ただ、世界1位になったといっても、賞金も高くない。選手仲間からなんのために続けているの?と聞かれ、スパッと返事ができない自分がいました。自己満足のためとしか言えない寂しさがありました。これでは夢がない。後に続こうと思う選手が出てこないと感じました」そしてプロを目指され、08年に北京パラで金メダル、09年に「プロ宣言」、12年ロンドン大会で2連覇されました。海外へもチャレンジする後輩が現れ、強い影響を与えています。



国枝慎吾さん：9歳の時、背中の腫瘍が原因で車いす生活になり、11歳で競技を始めた。38歳で引退。シングルス4大会優勝28度、パラリンピック金3度。右ひじ手術後、復活優勝経験有。

### 【合格体験記③】 関西大学 総合情報学部 合格（一般選抜） 令和4年度 進学総合卒

私は3年の5月頃にあった進路ガイダンスで関西大学の説明を聞き興味を持ち、目指し始めました。本格的に受験勉強を始めたのは8月からでした。入試で一番配点の大きい英語に一番時間を割きましたが、苦手意識のあった古文などを含め入試科目（英語、現代文、古文、日本史）を全体的に勉強していきました。ほぼ毎日塾に行き、学校や図書館でも勉強しました。夏休み以降は全体的に復習をしつつ、実践的な演習に入っていました。当時は夏休み明けに解いた過去問で思うように点が取れておらずとても落ち込みました。また演習問題でも満足のいく点が取れず、段々不安が大きくなっていきました。12月からは過去問演習に入り、何度か合格最低点をとることができましたが、自分の間違いとしっかりと向き合い、また学校の先生方に悩みを聞いてもらったり相談することで乗り越えることができ、自信を持って本番を迎えることができました。私はこの経験を通して「諦めないことの大事さ」を学びました。私自身何度も諦めそうになりましたが、たまに休んでも努力し続けた結果、今があります。辛いと思うこともあるかもしれませんが、そのときは「今の自分が未来の自分を助けるんだ」という気持ちで踏ん張ってみてください。そして自分がこれまで積み重ねてきた時間と努力を信じてください。きっと大丈夫。

### 【合格体験記④】 神戸学院大学 人文学部 合格（学校推薦型公募制） 令和4年度 進学総合卒

私は人文学部人文学科に合格することができました。この大学に合格できた要因は2つあると考えています。

1つ目は、ありきたりですが積極的に勉強し受験への意識を高めることです。確かに勉強したことがどれだけ覚えられているのかということは受験において非常に重要だと思います。ですが、まずは勉強するということを当たり前にし、自分が受験生であるという自覚を持つことが大切です。それを教えてくれたのは、ある英語の先生でした。その先生はお忙しい中、朝早くから放課後の遅くまで親身に勉強を教えてくださいました。英語の長文や文法のプリントのみならず、他教科への指導も徹底しててくださいました。本当に感謝してもしきれません。

2つ目は、精神的な不安を隠さず話すということ。受験勉強の期間は、普段気にならないようなところでストレスが溜まっていきます。周りの友達が合格し受験が終わっている中、自分はこのままの勉強量で良いのか、本当に受かるのか、不安や葛藤を抱え込んでしまいます。そんな時は誰でも良いので周りの人に相談しましょう。実際、私も先生方や友人達に何度も背中を押してもらいました。受験当日も色々な人達の支えの言葉を胸に乗り越えることができました。忘れないで欲しいのは、受験は一人で乗り越える必要はないということです。不安に襲われている時は周りを頼り不安を自信に変えることが重要です。

### 【合格体験記⑤】 甲南大学 文学部 合格（一般選抜） 令和4年度 特進・7ト・バンコース卒

私が受験勉強を始めたのは、部活動引退後の5月頃です。1年の時から定期テストの勉強だけは頑張っていました。が、危機感を持つことなく過ごしていました。本格的に受験勉強を始める夏までは、なんの目標も対策もせず、漠然と勉強をしているだけでした。ですが私は日本史の勉強は公募制入試の後でも間に合うという本当に甘い考えで勉強していたので、後でめっちゃくちゃ後悔することになります。具体的に英語は「英単語ターゲット・スクラップ・ブック」を使い、読解力向上のため「入門英文解釈の技術70」を使用しました。現代文には自信があり過去問をひたすら行うこと、学校の先生に少しでも疑問があると自分の考えとどう違い、どこで考えを変える必要があるかを解釈しながら質問しました。古文は「古文上達基礎編」を4周はしました。日本史は「時代と流れで覚える!」と教科書を使用しました。これらの参考書を何周も何周もしたことで結果が出ました。

受験生にしてほしいことは「自信のある教科を作る」、「受からないと終わる」くらいの気持ちを持つことです。最後に一番大事なことは「学校で勉強する」ことだと思います。なぜなら、私たちには学校＝勉強の場というイメージがあり気持ちが切り替えやすいし、いつでも質問できる、また、複数人でやるとモチベーション維持にも繋がるというメリットがあります。細かいことを書きましたが、結局「諦めない」これが全ての行動の原動力になります。

### 【合格体験記⑥】 兵庫県立大学 工学部 合格（一般選抜） 令和4年度 特進・Sコース卒

私が受験を終えて、大切だと思った事について書きたいと思います。まず、精神面で大切な事は、常に目標を持つ事です。その目標とは、志望校合格などの長期的な目標と、その目標達成に向けた短期・中期的な目標の事です。短期・中期的な目標の例は、「次の模試で偏差値を○ポイント上げる」「英検○級に合格する」などで、立てる時のコツは、長期的な目標から逆算していく事です。さらに精神面では、勉強へのモチベーションを持つ事も重要です。私は受験勉強を通して、人はモチベーションを持っている時が一番学力が伸びる事に気付きました。モチベーションを出すためにする事の例は、「オープンキャンパスに行く」「ライバルをつくる」などです。

次に精神面以外で大切な事を書きます。1つ目は、習慣化する事です。私は、自習室を利用する事と通学時にスマホを使って勉強する事を習慣化しました。この他にも習慣化できる事はいろいろあるので早いうちに多くの事を習慣化できると良いと思います。2つ目は、自分に合った勉強法を見つける事です。そのためには、本やインターネットなどで勉強法を調べ自分に合った方法が見つかるまで様々な勉強法を試す事が重要です。これから受験を控える皆さんは、早くから自分に合った勉強法を見つけ、習慣化して後悔の無い受験にしてください。

### 【合格体験記⑦】 株式会社千鳥屋宗家 就職内定 令和4年度 進学総合卒

私が接客業を志望した理由は、人見知りの性格を克服したかったからです。株式会社千鳥屋宗家さんは、何年もの間神戸野田高校に指定校求人として求人票を送ってくださっている会社で、ここならばアルバイト経験もなく右も左もわからない私でも、伸び伸びと成長していけるのではと思い、志望しました。

志望先が決まってから私が意識したことは目を合わせて話すことでした。前述したように、私は人見知りで人と目を合わせて会話することが大の苦手でした。面接練習の時にはいつもの癖で目を逸らしそうになっても堪えて目を見て話し続けることを心がけました。次に意識したのは、面接で話す内容を暗記しないことでした。丸暗記をすると、練習の時は安心感もありスラスラと言葉が出てきますが、本番の面接会場に行くと、知らない場所で知らない人と会話をする不安感で頭が真っ白になってしまいます。よって、話す内容のキーワードだけを覚えて話すことを頑張りました。面接練習の時に指摘を頂いた「声が小さいこと」「緊張で手遊びをしてしまうこと」を思い返して本番の面接に挑み、無事に内定をいただくことができました。

私が高校就職の面接を経験して感じたことは、過去の先輩たちが残してくれた記録や求人票をしっかりと読んで自分の志望先を決めるのが大切だということでした。学校を巣立ちそれぞれの道を進む皆さんが、悔いのない進路実現をできることを願っています。